

# 11月のアンケート結果 (H18.11)

よくあてはまる

あてはまる

どちらともいえない

×

あてはまらない

## 児童による評価結果

×

わたしは、 <sup>がっこう</sup> 学校が <sup>たの</sup> 楽しい。	52%	43%	5 %	
わたしは、 <sup>せんせい</sup> 先生や <sup>ともだち</sup> 友達から <sup>だいじ</sup> 大事にされている。	57%	29%	14%	
わたしは、 <sup>ともだち</sup> 友達と <sup>いろいろなこと</sup> を <sup>よく</sup> 話し合っている。	85%	10%	5 %	
わたしは、 <sup>せんせい</sup> 先生と <sup>いろいろなこと</sup> を <sup>よく</sup> 話し合う。	52%	43%	5 %	
わたしは、 <sup>いえ</sup> 家で <sup>まいにち</sup> 毎日 <sup>ちどくしょ</sup> 読書をしている。	29%	29%	29%	13%
わたしは、 <sup>よく</sup> 運動や <sup>うんどう</sup> 外遊び <sup>そとあそ</sup> をする。	67%	33%		
わたしは、 <sup>ともだち</sup> 友達に <sup>じぶん</sup> 自分の <sup>よい</sup> 所 <sup>ところ</sup> を知ってもらっている。	52%	43%	5 %	
わたしは、 <sup>せんせい</sup> 先生に <sup>じぶん</sup> 自分の <sup>こと</sup> を <sup>よく</sup> 知ってもらっている。	48%	48%	4 %	
<sup>せんせい</sup> 先生は、 <sup>わ</sup> 分かりやすく <sup>べんきょう</sup> 勉強 <sup>おし</sup> を教えてくれる。	90%	10%		
わたしは、 <sup>いえ</sup> 家で <sup>べんきょう</sup> 勉強している。	67%	24%		9 %

## 保護者による評価結果

×

学級での授業は、子どもの学力を伸ばす授業になっているか。	24%	76%		
子どもは、学習内容が理解できており、基礎的な学力が身についている。	14%	67%	19%	
子どもは、毎日、家庭学習を続けて行っている。(無票 1)	19%	28%	43%	5 %
子どもが問題集をした時は、いつも丸付けをしている。		19%	29%	52%
子どもは、毎日、家庭で読書を続けて行っている。	9 %	9 %	48%	34%
家庭で本の読み聞かせや親子読書をしている。		24%	38%	38%
学級の中で一人一人の子どもが大切にされているか。	28%	72%		
保護者として、子どものことをよく理解している。(無票 1)	5 %	90%		

先生に子どものことをよく理解してもらっている。	14%	86%		
子どもにとって学校は楽しい場所になっている。	19%	81%		

## 教職員による評価結果

×

児童の学力を伸ばす授業ができているか。		100%		
児童に基礎学力がついているか。		83%	17%	
児童の家庭学習の習慣化に向けて取組を行えているか。		83%	17%	
児童の家庭学習での読書の習慣化に向けての取組を行えているか。		50%	50%	
一人一人を大切にされた学級経営ができているのか。		50%	50%	
児童にとって学校は楽しい場所になっているのか。	30%	60%	10%	

## 教職員の自己評価結果と児童・保護者の外部評価結果より

- \* 「学校が楽しいか」については、児童・保護者・教職員の9割以上が、「児童にとって学校は楽しい所」という評価をしている。「どちらともいえない」という児童が減少した。学校が、児童にとって徐々に楽しい所になってきている。
- \* 「学習内容の理解」については、教職員・保護者とも、児童が十分に理解しているという評価はしていない。学習指導の一層の充実が必要である。
- \* 「一人一人が大切にされているか」については、14%の児童が「どちらともいえない」という評価をしている。学級経営において、「一人一人の児童を大切にする」ということを、教職員が具体化して共通理解していくことが必要である。
- \* 「家庭学習の習慣化」については、9割の児童がしているにもかかわらず、半数以上の保護者が、習慣化しているとはいえないという評価をしている。保護者が児童の家庭学習に具体的に関わっていけるように、働きかけていく必要がある。
- \* 「家庭読書の習慣化」については、半数以上の児童が家庭読書をしているにもかかわらず、家庭読書ができていると評価している保護者は少ない。保護者が、家庭読書に、具体的に関わっていけるように、教職員が働きかけていく必要がある。

## 学芸会アンケート結果

非常によかった      よかった      ふつう      ×よくなかった

×

劇を見てどう思われますか。	80%	20%		
音楽を聞かれてどう思われますか。	80%	10%	10%	
学芸会全般を通じて」どう思われますか。	100%			

## 自由参観アンケート (H19.1)

…よくあてはまる      …あてはまる      …どちらとも言えない      ×…あてはまらない

					×
子どもは楽しく学校へ行っている					
子どもは近所の人や友だちにしっかりと挨拶している					
子どもとその日にあったことを話し合っている					
子どものことについて気楽に先生と相談できる					
子どもは家でよく読書している					
子どもは運動が好きでよく外遊びしている					
保護者として子どものことをよく理解している					
先生に子どものことをよく理解してもらっている					
子どもは学習内容が理解できており基礎的な学力が身についている					
子どもは自学自習の習慣が身についている					
子どもは自分のよさを知り伸ばそうとしている					
自由参観日の授業は何について学習しているのかよくわかった					

自由参観日の授業で子どもたちは一生懸命学習に取り組んでいた				
学級の中で一人一人の子どもが大切にされている雰囲気を感じられた				
子どもが学習しやすい環境であつた				

## 3月のアンケート結果

(H19.3)

よくあてはまる      あてはまる      どちらともいえない      ×      あてはまらない

### 児童による評価結果

×

わたしは、 <small>がっこう たの</small> 学校が楽しい。	33%	44%	23%	
わたしは、 <small>せんせい ともだち だいじ</small> 先生や友達から大事にされている。	52%	48%		
わたしは、 <small>ともだち はな あ</small> 友達といろいろなことをよく話し合っている。	76%	24%		
わたしは、 <small>せんせい はな あ</small> 先生といろいろなことをよく話し合う。	48%	52%		
わたしは、 <small>いえ まいにちどくしょ</small> 家で毎日読書をしている。	19%	48%	23%	10%
わたしは、 <small>うんどう そとあそ</small> よく運動や外遊びをする。	71%	19%	5 %	5 %
わたしは、 <small>ともだち じぶん ところ し</small> 友達に自分のよい所を知ってもらっている。	52%	43%	5 %	
わたしは、 <small>せんせい じぶん し</small> 先生に自分のことをよく知ってもらっている。	52%	43%	5 %	
わたしは、 <small>いえ べんきょう</small> 家で勉強している。	62%	33%	5 %	

### 保護者による評価結果

×

学級での授業は、子どもの学力を伸ばす授業になっているか。	29%	71%		
子どもは、学習内容が理解できており、基礎的な学力が身につけている。	10%	80%	10%	
子どもは、毎日、家庭学習を続けて行っている。	14%	76%	10%	
子どもが問題集をした時は、いつも丸付けをしている。		29%	38%	33%

子どもは、毎日、家庭で読書を続けて行っている。	10%	29%	48%	13%
家庭で本の読み聞かせや親子読書をしている。		14%	29%	57%
学級の中で一人一人の子どもが大切にされているか。	61%	29%	5 %	5 %
保護者として、子どものことをよく理解している。	10%	90%		
先生に子どものことをよく理解してもらっている。	48%	52%		
子どもにとって学校は楽しい場所になっている。	38%	52%	10%	

## 教職員による評価結果

×

児童の学力を伸ばす授業ができていますか。	33%	67%		
児童に基礎学力がついているか。	33%	67%		
児童の家庭学習の習慣化に向けて取組を行えているか。	17%	83%		
児童の家庭学習での読書の習慣化に向けての取組を行えているか。		57%	43%	
一人一人を大切にしたい学級経営ができていますか。	33%	67%		
児童にとって学校は楽しい場所になっているか。	25%	75%		

## 教職員の自己評価結果と児童・保護者の外部評価結果より

- \* 「学校が楽しいか」については、児童・保護者・教職員の8割近くが、「児童にとって学校は楽しい所」という評価をしている。「どちらともいえない」という児童増加したのは、行事の少ない学年のまとめの時期であるからと考える。
- \* 「学習内容の理解」については、教職員・保護者とも、児童が理解しているという評価が増えてきている。学習指導の充実を継続していく。
- \* 「一人一人が大切にされているか」については、児童・保護者・教職員の90%以上が大切にされているという評価をしている。教職員がさらに具体化して共通理解していくことを継続していく。
- \* 「家庭学習の習慣化」については、児童・保護者の9割以上が、習慣化していると評価をしている。保護者が児童の家庭学習に具体的に関わってもらえたことの表れであると考えられる。

「家庭読書の習慣化」については、半数以上の児童が家庭読書をしているにもかかわらず、家庭読書ができていると評価している保護者は少ない。保護者が、家庭読書に、具体的に関わっていけるように、教職員がさらに働きかけていく必要がある。